

持続的な食料システムを担う次世代リーダー育成事業

現状・課題

- 産学連携について、組織的な体制が構築されていないことから、一学校、一学科での取組に終始しており、取組の差が見られる。
- 産学連携の取組そのものが単発的で、必ずしも体系立てられたプログラムになっておらず、十分な教育効果につながっていない。また、連携についての効果検証ができておらず、発展的な取組につながっていない。
- 専門の学びを活かした進路を選択する生徒が相対的に少なく、産業界が求める人材育成や確保に応えることができていない。

事業目的

- ① 産業界と連携した教育プログラムを構築することで、産業界への理解を深めるとともに、絶え間ない変化や潮流を的確にとらえ、自ら課題を見つけられる人材を育成する。
- ② 学科間連携を深めることで、幅広い知識や技術を身に付け、諸課題を主体的に解決できる人材を育成する
- ③ グローカルに視点をおいた取組を実践することで、世界を視野に、地域で新たな価値を創造できる人材を育成する。

事業内容

研究拠点校　宮崎県立宮崎農業高等学校

農業に関する学科として「生物工学科」「生産流通科」「食品工学科」「環境工学科」、家庭に関する学科として「生活文化科」を有する。

【主な取組内容】

- ▶ 農水省「みどりの食料システム戦略」に準じた学習プログラム
　　プログラムの研究開発
 - * 調達→生産→加工・流通→消費に至る食料システムを基盤とした5学科横断型学習プログラム
 - * 「みやざきアグリプレーヤー」に必要とされる資質・能力の育成を目的に産業界と連携した授業、実習等を実施
- ▶ 海外の農業・食文化に関する学習や海外姉妹校との継続的な取組
- ▶ 県内農業系高等学校(8校)及び県農業大学校、県教育委員会との連携による成果の県内普及促進

事業運営委員会

【産学連携コーディネーター】
ローカルフードコーディネーター

【カリキュラムアドバイザー】
宮崎大学　学び・学生支援機構　特別講師

【各委員】
持続的な食料システムの理念に準じた学習プログラムの具現化を目指すため、「調達」「生産」「加工・流通」「消費」の各領域において、県内外で実践的に活動をしており、将来の人材育成に高い意識を有する委員に依頼

事業計画

- 1
年
目

 - ▶ これまでの産業界との連携内容の整理・検証及び連携体制の再構築
 - ▶ 「みやざきアグリプレーヤー」に必要とされる資質・能力の明確化
 - ▶ 「みどりの食料システム」を基盤とした学科横断型学習プログラムの構築
 - ▶ 海外連携校との姉妹校締結、オンライン交流の推進
- 2
年
目

 - ▶ 事業終了後も継続できる連携体制の構築
 - ▶ 学科横断型学習プログラム(探究型学習)の実践及び効果検証
 - ▶ 海外研修、海外連携校との対面交流、継続的な対面交流の在り方検討
 - ▶ 県農業教育研究会等での研究発表と成果の県内普及

持続的な食料システムを担う次世代リーダー育成事業

